



Title	大阪大学経済学部における女子学生比率の低率推移の 要因分析
Author(s)	松岡, 美貴梨; 北爪, 駿丞; Nguyen, Ngoc, Anh
Citation	大阪大学経済学. 2023, 72(4), p. 19
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/90775
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

【2022年度 学生懸賞論文受賞作 特別賞要旨】

大阪大学経済学部における女子学生比率の低率推移の要因分析

松岡美貴梨 北爪駿丞 Nguyen Ngoc Anh

理工系学部における男女割合の差が問題視され、その改善に向けた取り組みが内閣府やその他の機構によって積極的に行われている。しかし、経済学部的女子学生比率に関して議論が交わされることは非常に少ない。本研究では、文系でありながら女子学生比率が3割程度にとどまっている経済学部に着目して、女子学生比率の時系列比較と経済学部間比較を行いその変動要因を調査した。その結果を踏まえて、大阪大学経済学部的女子学生比率の低迷要因を考察、改善策の検討を行った。時系列比較では、文部科学省が実施している「学校基本調査」の2000年度から2022年度までの関係学科別入学者データを用いて、景気変動が経済学部的女子学生比率に与える影響を調査した。回帰分析の結果、公立大学や私立大学の経済学部女子学生比率に関しては、景気拡大が正の影響を及ぼしていることが示唆されたが、国立大学では有意な結果が得られなかった。経済学部間比較では、大学改革支援・学位授与機構が公表してい

る「大学基本情報」のうち、国立大学経済学部2022年度入学者データを用いて女子学生比率に与える要因を分析した。各大学の特徴を示す項目を変数として重回帰分析を行った結果、女性教員比率が有意に正の影響を及ぼしていることが分かった。データ数に限界があったこともあり、その他の変数からは有意な結果を得ることができなかった。

以上から、国立大学である大阪大学経済学部的女子学生比率は、不況による負の影響をあまり受けず、女性教員比率の低さがその低迷要因の一つであることが分かった。ただし留意点として、本研究では偏差値が説明変数や被説明変数に与える影響を排除して分析を行っているため、一概にこの結果が正しいとは言えない。しかし、女性教員比率と女子学生比率の間には強い関連性が確認されたことから、女性教員数を増加させる施策は経済学部的女子学生比率の改善に貢献すると期待できる。